

TECHNICAL INFORMATION

NIHON CHEMTREX CO.,LTD

〒174-0043 13-39-1 SAKASHITA ITABASHI-KU TOKYO JAPAN

TEL:(03)3430-1139

アルデヒド用消臭剤

エアクレンス FC-HG07

エアクレンス FC-HG07N

【特長】

本消臭剤は、不織布への含浸(塗布)を目的とし、必要に応じてバインダーを添加したもので安全性と性能を重視したアルデヒド対応消臭剤である。

- 1) 本消臭剤は、下記の成分を組み合わせたもので、各成分の相乗効果により優れた性能を発揮する。
- 2) 耐熱性は成分の分解温度から180℃前後と推測される。
- 3) 安全性の高い成分で構成されております。

【性状】

性状	種類	FC-HG07	FC-HG07N
		バインダー入り	
成分	アミン系化合物+アミノ酸	○	○
	無機塩	○	○
	PEG(ポリエチレングリコール)	○	○
	アクリル系樹脂バインダー	○	
	浸透剤(ノニオン系界面活性剤)	○	○
	純水	○	○
外観		無色～淡黄色透明液体	
臭い		微臭	
固形分	±1%	12.88	12.85
pH	±1.0	6.8	6.8

※上記数値は、暫定値である。

【用途】 : 原液を不織布、繊維等への加工用(スプレー又は含浸)として使用して下さい。

【消臭性能】 : アセトアルデヒドに対する消臭性能結果

1) 試験体の作製

各消臭剤の原液を純水で30%に希釈し、25cm²の口紙に50μl塗布した後、100℃の熱風で2分間乾燥し試験体とする。

2) 試験方法

1Lのガラス容器に試験体を入れた後、所定濃度のアセトアルデヒド水溶液を所定量滴下した後直ちに密閉し、90分経過後の残存ガス濃度を検知管にて測定する。

3) 試験結果

試験体	悪臭物質残存ガス濃度 (ppm)
	アセトアルデヒド
空ブランク	135
FC-H88P	13
FC-HG07	4
FC-HG07N	2

【耐フォギング性】 : 弊社簡易フォギング試験方法にて確認

評価基準	H88P	HG07	HG07N
○△×	○	○	○
5-1	4.7	4.7	4.7

【耐フォギング性】

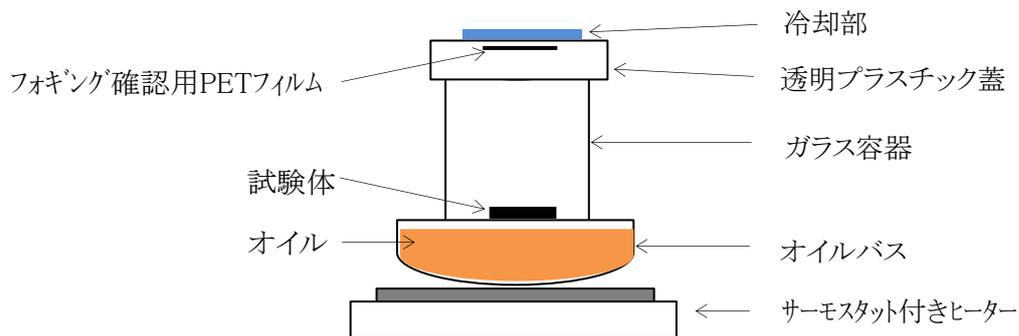
1) 試験体の作製

消臭剤の原液を5cm×6cmの口紙に90 μ l塗布した後、120℃の熱風で2分間乾燥させたものを試験体とする。

2) 簡易試験方法

- ・100℃に加熱したオイルバスに、高さ170mm、上部の開口部(上口部)が直径70mmのガラス容器を下部がオイルバスのオイルに35mm程度沈むように設置する。
- ・次に透明なプラスチックの円形蓋の内側に、45mm×45mmの透明なポリエステルフィルム(50 μ)を張り付けた後ガラス容器の上口部分に設置する。
- ・前記円形蓋の上部には「冷却部」として厚手の不織布をのせ、さらにその上には蓄冷剤を載せてプラスチックの円形蓋上部が約10℃に保持されるよう冷却する。
- ・オイルの温度を100℃に、冷却部を10℃に保ちながら2時間後の「フォギング確認用PETフィルム」の曇り状態を確認する。

[試験装置概略図]



3) 試験結果

試験体	判定	判定基準
FC-H88P	○	○(5): 付着物が無く透明 △(3): 付着物で曇りがややある ×(1): 付着物が多く曇りで先が見えない
FC-HG07	○	
FC-HG07N	○	

【耐腐食性】

1) 試験方法(弊社法)

- ① プラスチック容器に不織布を入れ、そこに消臭剤を規定量滴下させ不織布に浸透させる。
- ② 消臭剤を浸透させた不織布上に各種金属を置き、プラスチック容器に蓋をして密閉状態で常温放置する。
- ③ 2日経過後に、試験体の腐食状態を目視にて判定する。
※金属片:0.5mm厚の鋼板、銅板とする。

2) 試験結果

薬剤	経過日数	判定部分	生鉄		銅			
			○	△	○	△		
H88P	2日	(不織布)接触部	×	1	△	3		
HG07			○△	4	○	5		
HG07N			○△	4	○	5		
H88P		(不織布)非接触部	×	1	×	1		
HG07			○△	4	○△	4		
HG07N			○△	4	○△	4		
判定基準	○: 腐食していない △: やや腐食している ×: 腐食している (数値による判定基準) ○:5 ○△:4 △:3 ×△:2 ×:1							